

エクスクレマン  
分泌 = 排泄物の文化地理学

——オードリクール再検——

松 井 健

- 
- |               |                    |
|---------------|--------------------|
| はじめに          | 2. 若干の事例についての検証と補足 |
| 1. オードリクールの所説 | 3. 討 論             |
- 

論文要旨

アンドレ=ジョルジュ・オードリクール (André-Georges Haudricourt) は、家畜の乳と人間の排泄物に対する文化的態度が、インドを含む西南アジア地域と中国を含む東南アジア地域とで、対照的に異なることに着目し、これが両地域においておこなわれた家畜化が、その対象動物の習性、過程、結果においてまったく違っていたことに帰因することを示唆した。このオードリクールの所説を、いくつかの事例から再検討し、その有効性を吟味した。この結果、根拠としている具体的な事象については、その大枠について肯定的に評価することができた。ただし、家畜の乳と人間の排泄物に対する文化的態度の対照的性格が、両地域でおこなわれた家畜化の二つの様式に起源をもち、家畜と人間とのそれぞれに特異な関係のなかで成立したというオードリクールの示唆を支えるためには、1万年近い期間、どのようにしてこれらの文化的態度が維持強化されてきたのかについて、そのメカニズムが解析されねばならない。この作業なしには、両地域の差違を、生態学的諸条件の違いによって説明する立場以上の説得力をもつことは困難である。極論すれば、生態学的な諸条件の違いがドメスティケーションの二つの型—中東地方では群をなす有蹄類と種子繁殖のムギ類、東南アジア地方では雑食性の動物と栄養体繁殖のイモ類—を実現させたことを主張しうるからである。

オードリクールの所説の有効性と問題点を検討することを通して、排泄 = 分泌物に対する文化的態度の相違を、より広い文化地理学的視点から解明する可能性について考究した。